

# 1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771100520		
法人名	社会福祉法人 瑞祥会		
事業所名	グループホーム あじさい		
所在地	香川県東かがわ市引田922番地18		
自己評価作成日	令和元年10月09日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町1丁目10番35号		
訪問調査日	令和元年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣にパークゴルフ場・テニスコート・公園があり、地域の人たちとの交流が行われている。また、のどかな山間のため、つくし採り、タケノコ堀り等、利用者は散歩がてら季節を楽しむことができる。職員とのコミュニケーションもよく、利用者同士お互いに声をかけ合い、助け合っており、家族や面会者からも好評。お寺参りやショッピング、弁当持参でお花見や外食など取り入れながら、地域の行事にも積極的に参加している。また、ボランティアも積極的に受け入れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所は「明るく温かい」雰囲気、食堂や廊下には入居者と職員が一緒に作った季節の飾りつけや行事の際の写真を掲示している。管理者の前向きな姿勢と、入居者や家族を想う気持ち、職員もいっしょになって共有している。入居者一人ひとりの、その人らしさを大切に、毎日のケアにあたっている。地域との交流では、絵手紙や大正琴のボランティアや子ども園から園児が来訪したり、地元中学校のワークキャンプなども積極的に受け入れている。毎日の食事は、管理栄養士が立てた献立で、季節感を味わえる。食材を切ったり、あえ物を混ぜてもらうなど、入居者にも調理を手伝ってもらっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者が、いつまでもその人らしく、安全に安心して生活できるよう、優しさにあふれたサービスを提供できるよう心掛けている	法人及びグループホームの理念を掲示している。できることは本人にしてもらう、その人のペースを大切にするなど、管理者が自ら、日頃のケアの中で模範を示したり、職員との対話を通して、理念の浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ひな祭等地域行事へ参加し、交流している。また、絵手紙・大正琴等の地域のボランティアを受け入れている	絵手紙や大正琴のボランティアや、子ども園の園児との交流がある。また、地元中学校のワークキャンプなども積極的に受け入れている。夏祭りは地元住民で大変賑わう。	管理者の「子どもたちが気軽に立ち寄ってくれたら」という思いが形になるよう、運営推進会議の場で伝えたり、隣接のテニスコートに中学生の練習を見学に行くなど、できることから取り組んで欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の福祉体験学習を通じて、地域の人たちとの交流を図っている。また、実習生の受け入れや見学者の相談に対応している	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご利用者の状況や活動報告を行い、委員からの意見をサービス向上に活用している	民生委員や地域住民代表、市の担当者、家族代表及び利用者代表が参加して開催している。民生委員から入居について相談を受けたり、地域の方からイベントや外出先の情報を教えてもらうこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃の交流はあまりないが、運営推進会議を通じて意見交換を行い、協力関係を築いている。認知症フェアへの参加等	運営推進会議に市の担当者が参加しているので、その際に事業所の状況を把握してもらっている。また、併設の特別養護老人ホームの生活相談員も市と連携を取っている。今年市主催の認知症フェアに参加するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関その他の出入り口は開放している。徘徊時は制止するのではなく、職員が付き添い散歩するなど、行動を共にして見守りしている。また、マニュアルを作成し活用している	毎月、併設の特別養護老人ホームと合同で、身体拘束に関する委員会を開催し、拘束について正しい理解と共有を図っている。玄関は開放するとともに、外に出て行こうとする利用者にも制止せずに付き添うなど、抑圧感のないケアを実践している。	

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護を嫌がる傾向があるご利用者に関しては、医師やご家族の意見を基に、職員間で話し合い、対応方法を検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同一法人内の特別養護老人ホームでの研修会に参加している。また、制度を利用しているご利用者に関しては、担当者との連絡を密にして支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度十分な説明を行い、理解・納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望を聞いている。また、月2回、市からの介護相談員の派遣を受け、ご利用者の相談を受けている。年1回家族会を開催し、ご利用者・ご家族・職員間の交流を深め、意見を伺い、対応している	日頃から面会時に積極的にコミュニケーションを取ることで信頼関係を築いている。家族には、日々の生活で見られる入居者のポジティブな出来事を大切に伝えている。また、年に1度の家族会は趣向を凝らし、本人・家族・職員が交流を図れるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、常に職員の意見を基に話し合いを行い、ご利用者・職員の対応に反映させている	管理者は、日頃から職員の提案や相談事に耳を傾け、できるだけその場で結論を出すことを大切にしている。また、併設の特別養護老人ホームの相談員や施設長とも緊密に連携を取るなど、風通しの良い職場環境の形成に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を実施し、生きがいのある職場づくりを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受け、施設の研修に活かしている		

14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設との交流を図っている		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家庭への訪問、事業所の見学、知人との交流を通じて、ご本人の希望や不安等、納得がいくまで聞き取り、安心していただけるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家庭への訪問、事業所の見学、知人との交流を通じて、ご本人・ご家族の希望や不安等、納得がいくまで聞き取り、安心していただけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及びご家族の要望を聞いて介護計画を作成し、援助を行っている、また、6か月ごとに見直しを行い、その都度対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者とのコミュニケーションを密にしながら、ご本人の残存機能に応じて、職員とともに作業に参加してもらい、対等の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連携を密にし、ご本人とのパイプ役となり、職員とご家族がともにご本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事への参加や、ご家族の付添での外出など、なじみの関係が途切れないよう支援に努めている	家族が外出や外食に連れて行ってくれたり、花見などの事業所の行事に家族と一緒に付き添ってくれることもある。施設の夏祭りには地元住民で賑わい、その際に顔なじみの人と挨拶を交わすこともある。	

21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が孤立していないか、常に気を配って見守りし、お互いが声を掛け合い、助け合いながら生活できるよう支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて相談や支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やコミュニケーションを図りながら、ご利用者やご家族の希望や意見を把握している。聞き取りができない場合は、表情や行動から察するように心がけている	日々の対話や表情を通して、思いや希望を把握するとともに、些細なことでも職員間で共有し、入居者の望む暮らし方を実現するよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時には、生活歴等聞き取りしている。また、ご利用者やご家族との会話や、日常生活の中から把握する様努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、一人一人の行動や表情などから、有する能力を把握する様努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者やご家族の要望を聞くとともに、月1回ケース会を行い、個々の能力に応じた介護計画を作成している	日頃から入居者や家族の希望を聞きつつ、月に1回の介護会を通して、職員から意見を聞いている。計画の実施記録は担当者が行い、計画の評価と見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の処遇状況や日々の状態を記録したケース記録を基に、変化があればその都度職員やご家族で話し合っている		

28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況により隣接する特別養護老人ホームの施設を借りて、他のご利用者との交流を図るなどして対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・介護相談員・ご家族や知人、地域の方達との交流を図りながら、心身の力を発揮し、安全で豊かな暮らしができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を大切に、ご家族と受診結果を共有している。異常時にはご家族に連絡し、了解を得てかかりつけ医の指示を受け対応している	本人及び家族が希望する病院を尊重している。現在は事業所の嘱託医を希望する利用者がほとんどで、定期的な往診を受けている。夜間や休日等も連絡が取れる体制にあり、安心感がある。嘱託医以外の医療機関を受診する場合は、家族の協力を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化が見られた時はすぐに連絡し、看護師と相談しながら対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院と連携している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う事業所としての方針を、契約時に説明している。体調の変化に伴って、その都度ご本人ご家族・関係者と話し合っ対応している	入居時に重度化や終末期について、事業所での対応方針を説明している。看取りは行っていないが、状態の変化に応じて本人や家族と話し合い、併設の特別養護老人ホームに移動してもらうなど、不安のないように対応している。	

34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・風水害・土砂災害等のマニュアルを整備している。同一法人の特別養護老人ホームと合同で、年2回、昼間・夜間を想定した避難訓練を実施し、ご利用者様も参加している	各種の災害を想定したマニュアルを整備するとともに、年に2回、併設の特別養護老人ホームと合同で避難訓練を行っている。うち1回は、消防署の立ち合いのもと実施している。備蓄は、水やフリーズドライの非常食と3日分の献立を準備している。	引き続き訓練を実施し、機器の使用方法や避難誘導を確実に身につけるとともに、マニュアルの有効性の検証や、地域の防災活動の動きも把握することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや言葉かけに関する研修を実施し、気になる言葉については職員間で注意し合い、個々の人権を尊重し、プライバシーに配慮して言葉かけや対応を行っている	入居者を名前で呼び、命令や制止するような言葉遣いをしないようにしている。居室も必要な時以外はむやみに入らないようにするなど、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が、希望や思いを言葉や表情・行動で自己決定できるよう、日常生活の中で働きかけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	少人数の生活であるため、可能な限りご利用者個々の希望に沿った生活を大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定を大切にし、美容院へ行ったり、出張してきた美容師に髪型の希望を伝えている。また、服装は自分で選んで着てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力を生かし、準備や片づけを手伝ってもらっている。また、菜園で野菜を収穫したり、つくしやたけのこを採り、一緒に調理して季節を楽しんでいる	管理栄養士の献立のもと、事業所で1～2品を調理している。献立は旬のものを活かしたもので、季節を味わえる。食材を切ったり、あえ物を混ぜてもらったりなど、入居者にも手伝ってもらっている。誕生会でケーキを作ったり、おやつ作りでホットケーキなどを焼くこともある。菜園で収穫した夏野菜が食卓に上がることもある。	

41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列施設の管理栄養士による献立を基に調理しているため、バランスが取れておいしいと喜ばれている。水分は、食事とおやつで確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、個人に応じた口腔ケアを行っている。また、夕食後には職員が声掛けや支援をして、義歯を外してポリドントにつけ、清潔にしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、失禁のあるご利用者はトイレ誘導を行っている。また、排便状況については、トイレ使用後に職員が声掛けして排便の有無を確認している	各居室にトイレが設置されており、トイレで排泄できるよう支援している。自分でトイレに行かれる方が多く、その際はさりげなくついていき排泄の確認をするようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に注意し、便秘がちのご利用者には特に気を付けて声掛けし、水分や乳製品を摂取してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日を除く毎日準備をして、入浴の声掛けを行い、希望に沿った時間に入浴している	週に3回、入浴できるよう支援している。毎日入浴したい、という入居者の希望にも柔軟に対応している。入浴時は、傷や発疹など、全身状態を観察するようにしている。入浴を拒否する場合は、声かけを工夫するなど、職員間で共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠ができるよう、日中はレクリエーション活動や散歩で体を動かし、個々の状況に合わせて対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、ご利用者一人一人の薬の目的や用法が大切なことを理解し、服薬を支援している。また、症状の変化に常に注意している		



48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や残存機能を活かした役割・気分転換や楽しみ等の支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者やご家族の希望で、ショッピングや墓参り・お寺参り等、外食や弁当を持参しての外出を支援している。	日頃は事業所周辺の散歩や、春から夏には菜園の手入れをするなど、戸外に出かけている。つくしや筍を取りに行くこともある。また、菖蒲や紅葉狩りなど、季節に応じてドライブに出かけ、外食をすることもある。地元のひな祭りや地域のイベントにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の希望により、買い物や支払等の支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望により、ご利用者自らが電話をする等の支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者自らが活けた花や行事の写真・作品等、季節感を取り入れ、各居室に湿温度計を設置して換気や温度調節にも注意して、居心地良く過ごせる環境づくりに努めている	食堂などの共用空間は、明るく温かい雰囲気を感じる。入居者が活けた花や貼り絵や習字などの作品がふんだんに飾られ、生活感や季節感を感じる。行事の際の写真も掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではいろいろなゲームやパズル・テレビ鑑賞・読書など、ご利用者が思い思いに過ごせるような居場所を工夫している		

54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、自宅で使用していた家具など使い慣れた生活用品を使用し、自分で作った作品や写真などを飾ったり、花を活けたりして、居心地良く過ごせるよう工夫している</p>	<p>各居室にはトイレと洗面台が設置されており、プライバシーが保たれている。また、全室に温湿度計を置いている。馴染みの家具や、仏壇を持ち込んでいる入居者もあり、一人ひとり、その人らしさを大切に部屋作りを努めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ご利用者の状況を把握し、転倒防止のためクッションフロアにしたり手すりを設置している。居室がわからなくなる方には目印をつけるなど工夫している</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者が、いつまでもその人らしく、安全に安心して生活できるよう、優しさにあふれたサービスを提供できるよう心掛けている
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ひな祭等地域行事へ参加し、交流している。また、絵手紙・大正琴等の地域のボランティアを受け入れている
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の福祉体験学習を通じて、地域の人たちとの交流を図っている。また、実習生の受け入れや見学者の相談に対応している
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご利用者の状況や活動報告を行い、委員からの意見をサービス向上に活用している
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃の交流はあまりないが、運営推進会議を通じて意見交換を行い、協力関係を築いている。 認知症フェアへの参加等
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関その他の出入り口は開放している。徘徊時は制止するのではなく、職員が付き添い散歩するなど、行動を共にして見守りしている。また、マニュアルを作成し活用している

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護を嫌がる傾向があるご利用者に関しては、医師やご家族の意見を基に、職員間で話し合い、対応方法を検討している。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同一法人内の特別養護老人ホームでの研修会に参加している。また、制度を利用しているご利用者に関しては、担当者との連絡を密にして支援している
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度十分な説明を行い、理解・納得していただいている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望を聞いている。また、月2回、市からの介護相談員の派遣を受け、ご利用者の相談を受けている。年1回家族会を開催し、ご利用者・ご家族・職員間の交流を深め、意見を伺い、対応している
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、常に職員の意見を基に話し合いを行い、ご利用者・職員の対応に反映させている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を実施し、生きがいのある職場づくりを行っている
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受け、施設の研修に活かしている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設との交流を図っている

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家庭への訪問、事業所の見学、知人との交流を通じて、ご本人の希望や不安等、納得がいくまで聞き取り、安心していただけるよう努めている</p>
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家庭への訪問、事業所の見学、知人との交流を通じて、ご本人・ご家族の希望や不安等、納得がいくまで聞き取り、安心していただけるよう努めている</p>
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人及びご家族の要望を聞いて介護計画を作成し、援助を行っている、また、6か月ごとに見直しを行い、その都度対応している</p>
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご利用者とのコミュニケーションを密にししながら、ご本人の残存機能に応じて、職員とともに作業に参加してもらい、対等の関係を築いている</p>
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族との連携を密にし、ご本人とのパイプ役となり、職員とご家族がともにご本人を支えていく関係を築いている</p>
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>地域の行事への参加や、ご家族の付添での外出など、なじみの関係が途切れないよう支援に努めている</p>
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ご利用者が孤立していないか、常に気を配って見守りし、お互いが声を掛け合い、助け合いながら生活できるよう支援に努めている</p>

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて相談や支援に努めている
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やコミュニケーションを図りながら、ご利用者やご家族の希望や意見を把握している。聞き取りができない場合は、表情や行動から察するように心がけている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時には、生活歴等聞き取りしている。また、ご利用者やご家族との会話や、日常生活の中から把握する様努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、一人一人の行動や表情などから、有する能力を把握する様努めている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者やご家族の要望を聞くとともに、月1回ケース会を行い、個々の能力に応じた介護計画を作成している
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の処遇状況や日々の状態を記録したケース記録を基に、変化があればその都度職員やご家族で話し合っている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況により隣接する特別養護老人ホームの施設を借りて、他のご利用者との交流を図るなどして対応している

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・介護相談員・ご家族や知人、地域の方達との交流を図りながら、心身の力を発揮し、安全で豊かな暮らしができるよう支援している
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を大切に、ご家族と受診結果を共有している。異常時にはご家族に連絡し、了解を得てかかりつけ医の指示を受け対応している
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化が見られた時はすぐに連絡し、看護師と相談しながら対応している
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院と連携している
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う事業所としての方針を、契約時に説明している。体調の変化に伴って、その都度ご本人ご家族・関係者と話し合って対応している
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成している
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・風水害・土砂災害等のマニュアルを整備している。同一法人の特別養護老人ホームと合同で、年2回、昼間・夜間を想定した避難訓練を実施し、ご利用者様も参加している



IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや言葉かけに関する研修を実施し、気になる言葉については職員間で注意し合い、個々の人権を尊重し、プライバシーに配慮して言葉かけや対応を行っている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が、希望や思いを言葉や表情・行動で自己決定できるよう、日常生活の中で働きかけを行っている
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	少人数の生活であるため、可能な限りご利用者個々の希望に沿った生活を大切にしている
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定を大切にし、美容院へ行ったり、出張してきた美容師に髪型の希望を伝えている。また、服装は自分で選んで着てもらっている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力を生かし、準備や片づけを手伝ってもらっている。また、菜園で野菜を収穫したり、つくしやたけのこを採り、一緒に調理して季節を楽しんでいる
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列施設の管理栄養士による献立を基に調理しているため、バランスが取れておいしいと喜ばれている。水分は、食事とおやつで確保できるよう支援している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、個人に応じた口腔ケアを行っている。また、夕食後には職員が声掛けや支援をして、義歯を外してポリドントにつけ、清潔にしている

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、失禁のあるご利用者はトイレ誘導を行っている。また、排便状況については、トイレ使用後に職員が声掛けして排便の有無を確認している
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に注意し、便秘がちのご利用者には特に気を付けて声掛けし、水分や乳製品を摂取してもらっている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日を除く毎日準備をして、入浴の声掛けを行い、希望に沿った時間に入浴している
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠ができるよう、日中はレクリエーション活動や散歩で体を動かし、個々の状況に合わせて対応している
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、ご利用者一人一人の薬の目的や用法が大切なことを理解し、服薬を支援している。また、症状の変化に常に注意している
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や残存機能を活かした役割・気分転換や楽しみ等の支援を行っている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者やご家族の希望で、ショッピングや墓参り・お寺参り等、外食や弁当を持参しての外出を支援している。

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご利用者の希望により、買い物や支払等の支援をしている</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>個々の希望により、ご利用者自らが電話をする等の支援をしている</p>
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご利用者自らが活けた花や行事の写真・作品等、季節感を取り入れ、各居室に湿温度計を設置して換気や温度調節にも注意して、居心地良く過ごせる環境づくりに努めている</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールではいろいろなゲームやパズル・テレビ鑑賞・読書など、ご利用者が思い思いに過ごせるような居場所を工夫している</p>
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、自宅で使用していた家具など使い慣れた生活用品を使用し、自分で作った作品や写真などを飾ったり、花を活けたりして、居心地良く過ごせるよう工夫している</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ご利用者の状況を把握し、転倒防止のためクッションフロアにしたり手すりを設置している。居室がわからなくなる方には目印をつけるなど工夫している</p>